学校歯科健康診断早見表

年齢	年度	①顎関節	②歯列・咬合	③歯垢の状態	④歯肉の状態	⑤歯式	歯の状態 乳歯 現在歯数	乳歯 未処置歯数	乳歯 処置歯数	永久歯 現在歯数	永久歯 未処置歯数	永久歯 処置歯数	永久歯 喪失歯数	⑥その他の疾病及び異常	⑦学校歯科医 所見	⑦学校歯科医 月日	⑧事後措置
10歳	R8	⓪ 1 2	⓪ 1 2	0 1 ②	0 ① 2	（下記）	4	2	1	20	1	2	0	上唇小帯異常	CO GO 要注意乳歯	6月4日	う歯治療済 月/日 歯みがき指導

歯式
・現在歯
・う歯　［未処置歯 C　処置歯 ○
・喪失歯（永久歯）△
・要注意乳歯 ×
・要観察歯 CO
（例　4(斜線)　6(斜線)）

	8	7	6(斜線) ○	5	4	3(斜線)	2(斜線)	1(横線)	1(横線)	2(横線)	3(横線)	4(斜線)	5	6(斜線) CO	7(斜線)	8
上 右				E	D	C(斜線) ×	B	A	A	B	C	D	E(斜線) ○		左 上	
下				E(斜線) ㋚	D	C	B	A	A	B	C	D	E(斜線) C		下	
	8	7	6(斜線) ○	5	4(斜線)	3(横線)	2(横線)	1(横線)	1(横線)	2(横線)	3(横線)	4(斜線)	5	6(斜線) C	7	8

※学校歯科医は、平成7年度よりCO・GO・Gは必ず健診することになっています。

準　備

実施計画の立案、健康診断票の準備
検査室内の準備、記録者との打ち合せ
検査器具の準備・消毒、保健調査票の準備
事前指導

① 顎関節

0	異常なし	異常が認められない
1	要観察	顎関節部雑音 下顎偏位
2	要精検	開閉口時疼痛 2横指以下の開口障害

② 歯列・咬合

0	異常なし	
1	要観察	軽度の不正咬合
2	要精検	●下顎前突 前歯部2歯以上の逆被蓋 ●上顎前突 オーバージェットがデンタルミラーの直径の1/3以上 ●開咬 上下顎前歯間がデンタルミラーのホルダーの太さ以上 ●叢生 隣接歯が歯冠幅径の1/4以上重なり合っているもの ●正中離開 上顎中切歯間がデンタルミラーのホルダーの太さ以上 ●その他 （学校生活で著しい障害がある場合） 過蓋咬合、交叉咬合、鋏状咬合、逆被蓋

③ 歯垢の状態　前歯部唇面を視診

0	良好	ほとんどなし
1	若干の付着	1/3以下に付着
2	相当の付着	1/3を超える

④ 歯肉の状態　前歯部を視診

0	異常なし	炎症なし	
	異常なし	炎症は認めないが歯石沈着のある者	◆所見欄にZSと記入
1	要観察	歯石(−)の軽度の炎症	◆所見欄にGOと記入
2	要精検	歯石(+)の歯肉炎 診断、治療を要する炎症	◆所見欄にGと記入

⑤ 歯式の欄について

現在歯 (—, ／, ＼)	◇現在萌出している歯 ◇乳歯、永久歯とも斜線または連続横線で消す ◇過剰歯は数えない （⑥その他の疾病及び異常に記入）	要注意乳歯 (×)	◇保存の適否を考慮する必要がある乳歯 ◇処置歯、未処置歯としては扱わない ◇所見欄に要注意乳歯と記入する
未処置歯 (C)	◇治療を要する歯 ◇治療中の歯	要観察歯 (CO)	◇小窩裂溝の褐色・黒色など着色や白濁有り ◇平滑面の白濁、褐色斑有り ◇エナメル質の実質欠損が認められない ◇所見欄にCOと記入する ◇隣接面や修復物下部の着色変化、COが多数認められる場合、所見欄にCO要相談と記入
処置歯 (○)	◇修復されている歯	シーラント (㋚)	◇シーラントは健全歯とする ◇歯式に記載の必要があれば㋚を補助記号として記入する
喪失歯 (△)	◇う蝕が原因で永久歯の喪失したもの ◇矯正、外傷など、う蝕以外の原因により喪失した永久歯には▲を補助記号として使用する （福岡県方式）	その他	◇乳歯のサホライドは、COと同様の扱いとするが、治療を要する場合にはCとする。 その場合、未処置歯として扱うが、治療勧告しない。

⑥ その他の疾病及び異常

上唇・舌小帯付着異常、中心結節、過剰歯、先天性欠如の疑い、エナメル質形成不全等の異常名と部位を記入

⑦ 所　見

CO	要観察歯
CO要相談	COが多数認められる場合 地域の歯科医療機関との連携が必要な場合
GO	歯周疾患要観察者
G	歯周疾患要処置者
ZS	歯石沈着（歯肉炎なし）
要注意乳歯	保存の適否を考慮する必要がある乳歯
補綴を要する	ブリッジ・局部床義歯等
矯正治療中	便宜抜歯　矯正装置の装着されている者

（GO・G・ZSが重複することはない）

⑧ 事後措置

① 健康診断結果のお知らせ
② 健康相談
③ 食育
④ 保健指導と再評価
⑤ CO・GOの事後措置
⑥ 予防と歯・口の健康づくり
⑦ 統計資料の作成と評価
⑧ 児童虐待・養育放棄との関連

一般社団法人 福岡県学校歯科医会

令和８年